



2011年3月期 第2四半期
決算説明会

2010年11月24日

証券コード：9324

<http://www.yasuda-soko.co.jp/>

1. 環境認識

2. 2011年3月期 第2四半期(上期)の実績

3. 2011年3月期 通期の見通し

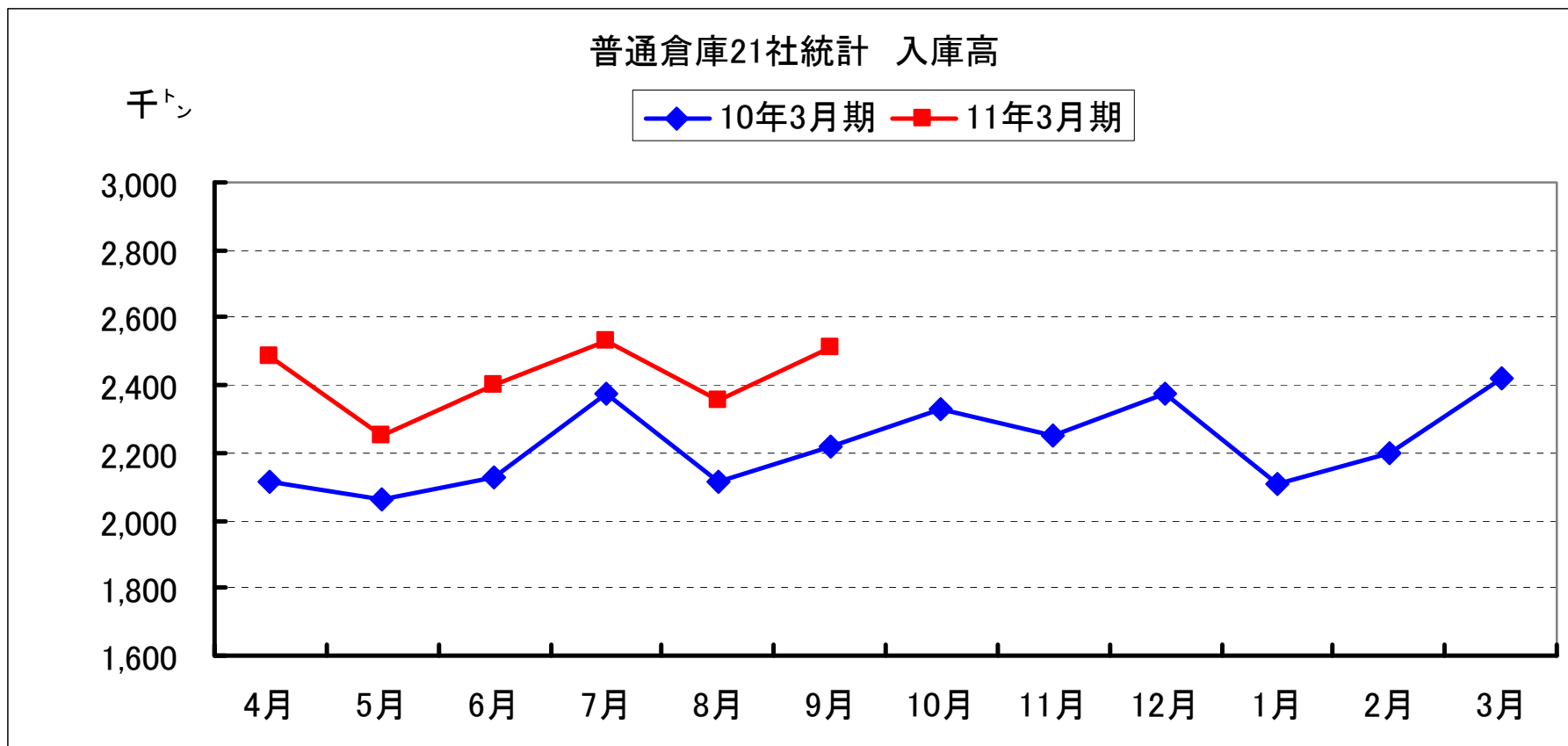
1. 環境認識

Two horizontal bars are positioned below the section header. The top bar is blue and the bottom bar is grey, both extending across most of the width of the slide.

普通倉庫21社統計にみる倉庫業界



普通倉庫21社統計 入庫高

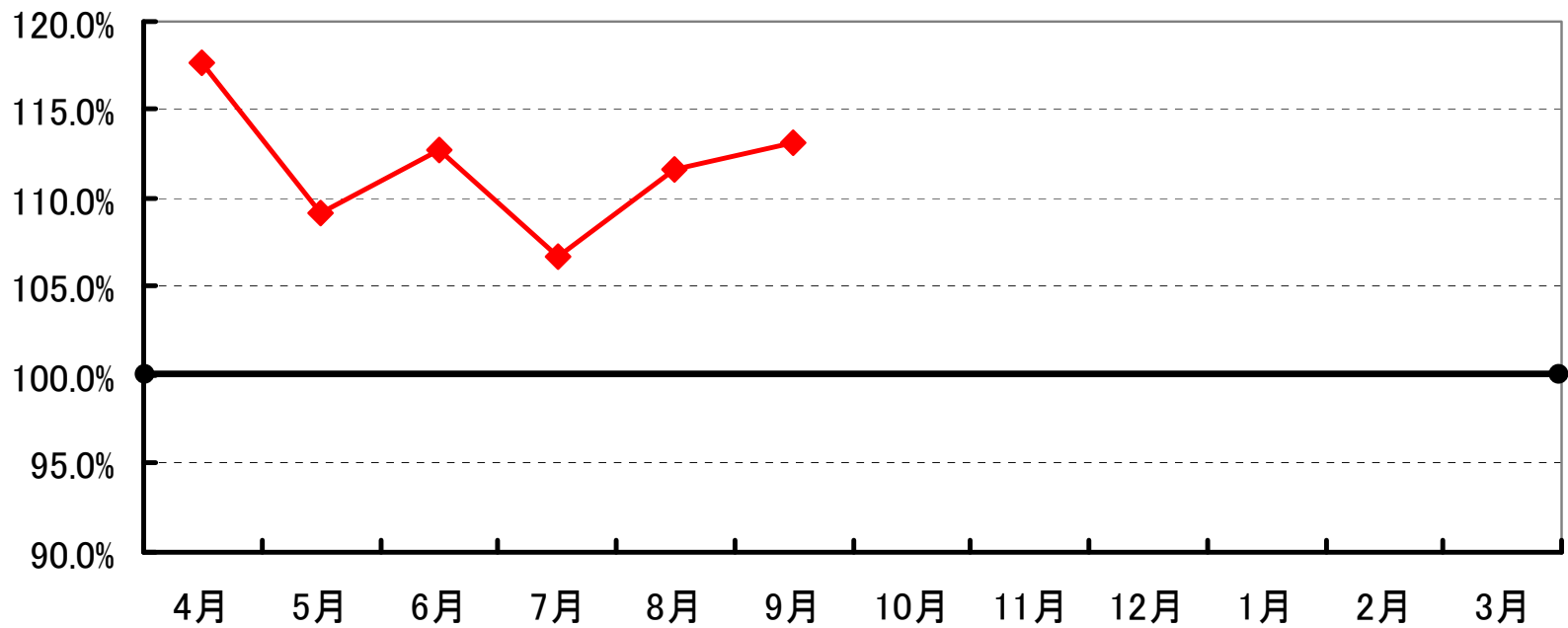


普通倉庫21社統計にみる倉庫業界



普通倉庫21社統計 入庫高

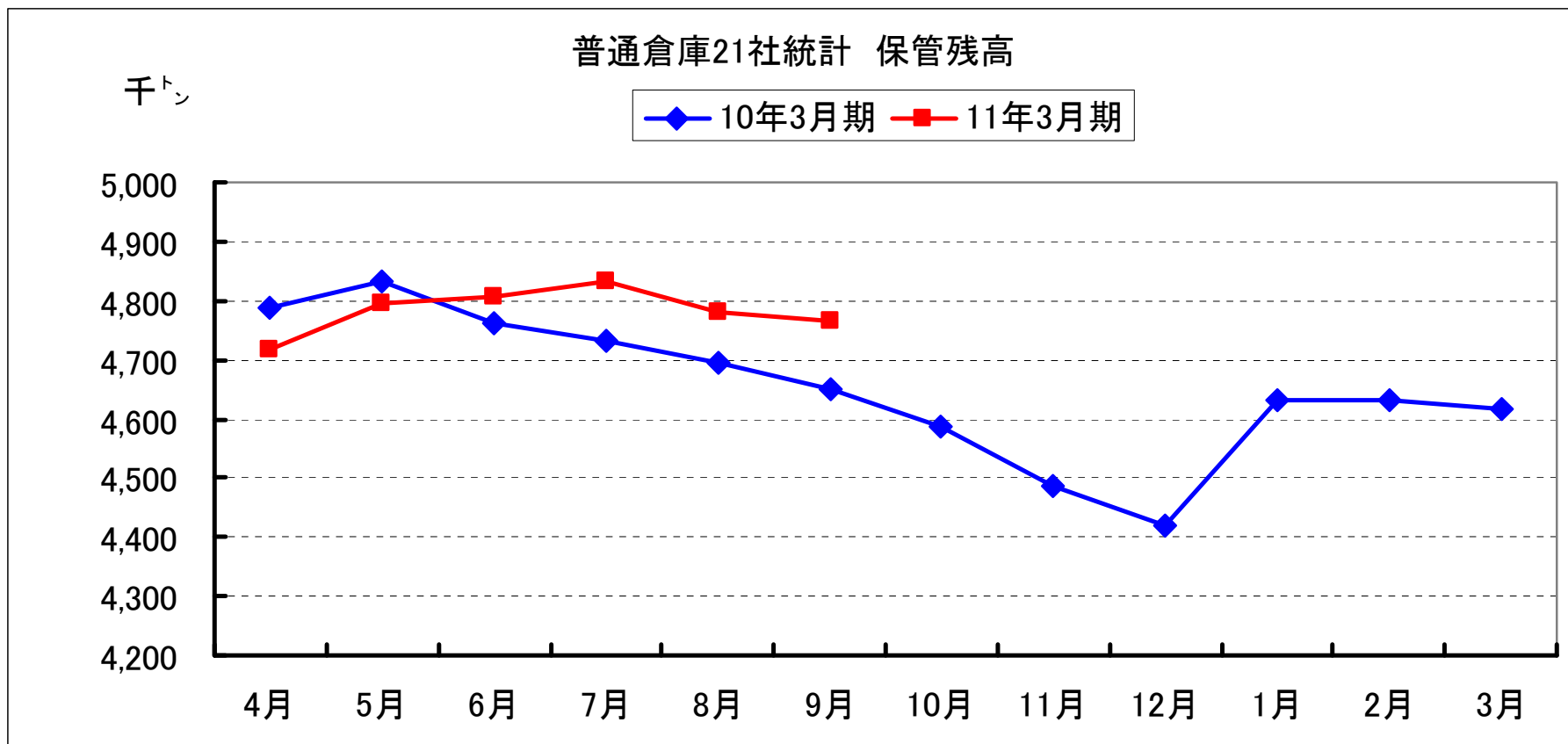
◆ 前年同月比



普通倉庫21社統計にみる倉庫業界



普通倉庫21社統計 保管残高

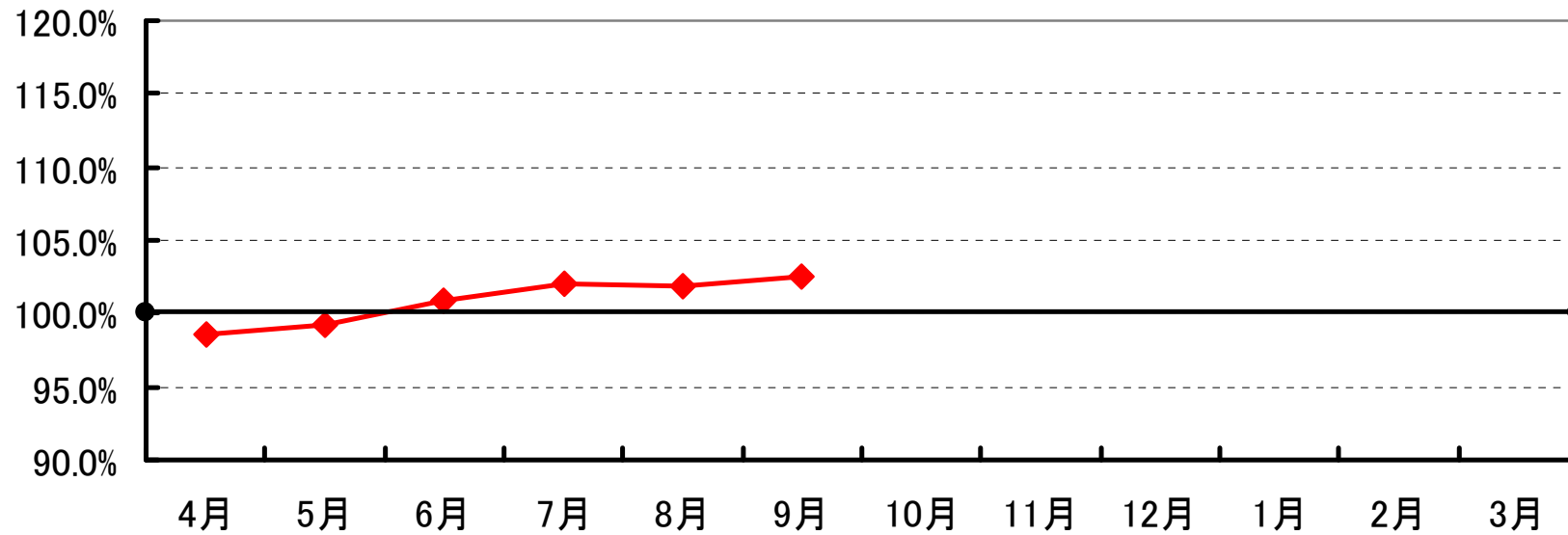


普通倉庫21社統計にみる倉庫業界

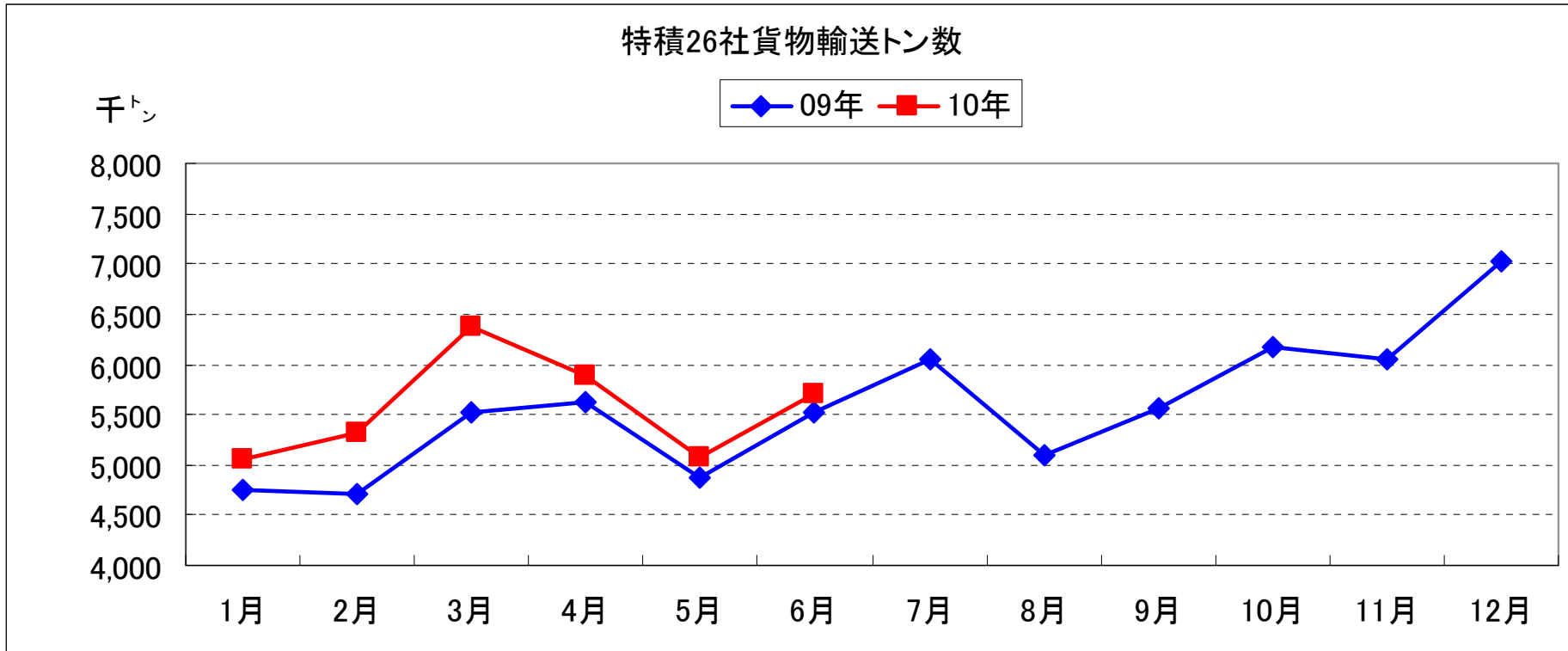


普通倉庫21社統計 保管残高

◆ 前年同月比

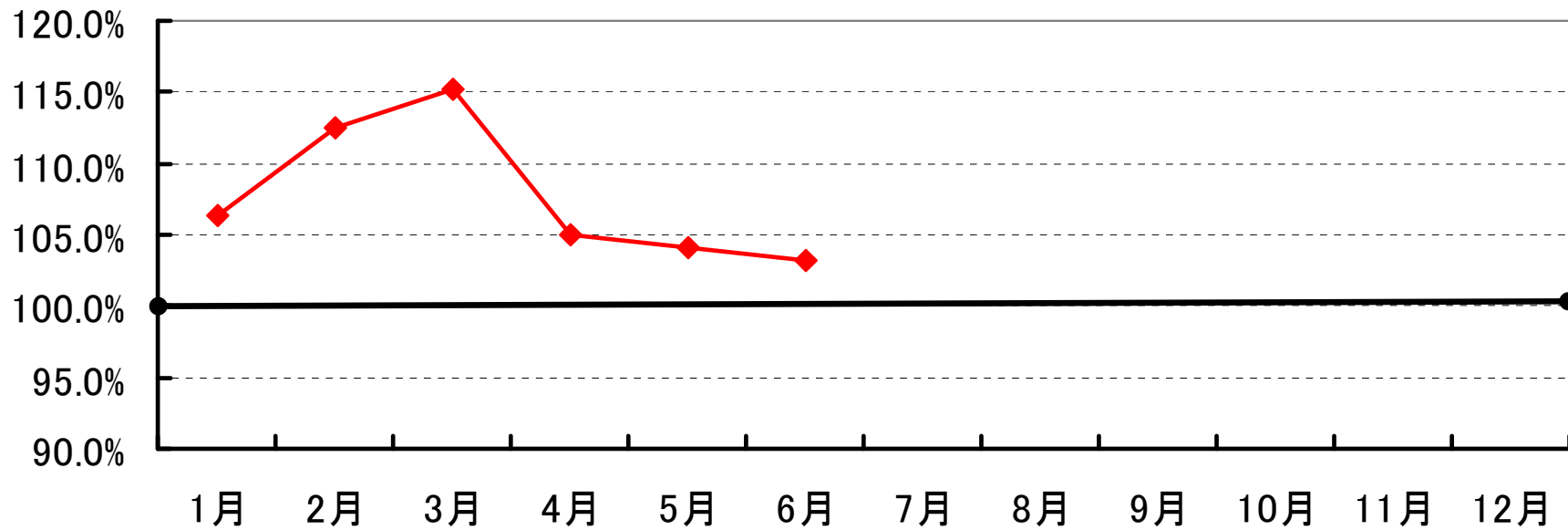


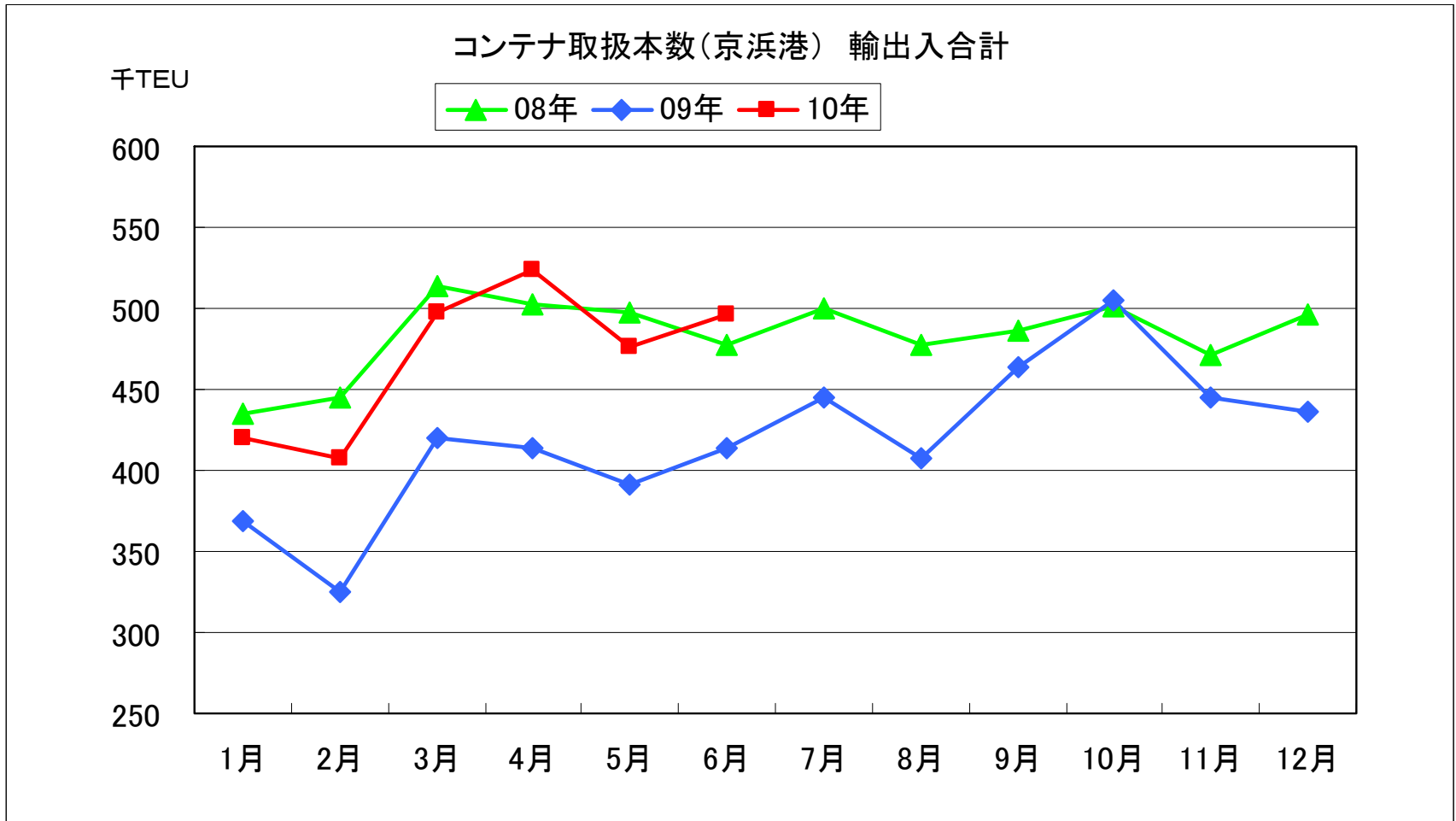
特積26社貨物輸送トン数



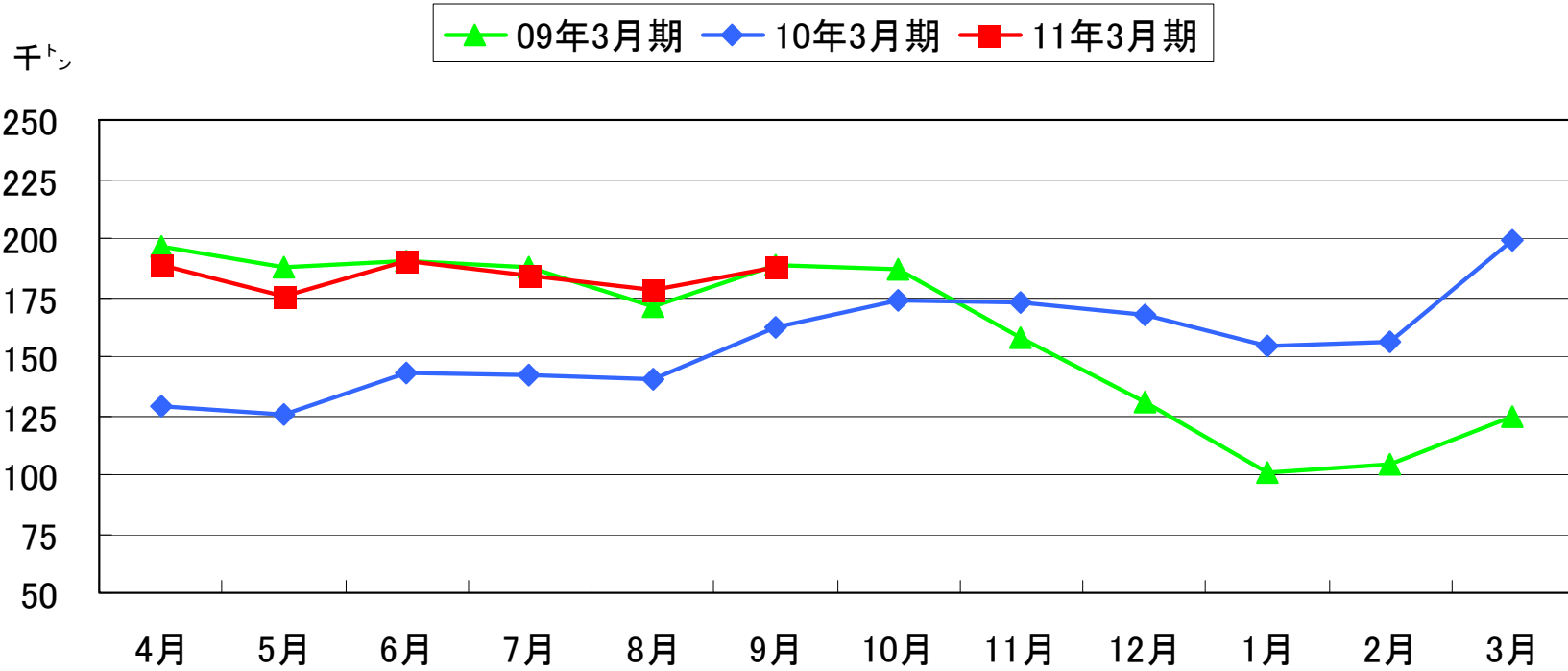
特積26社貨物輸送トン数

◆ 前年同月比





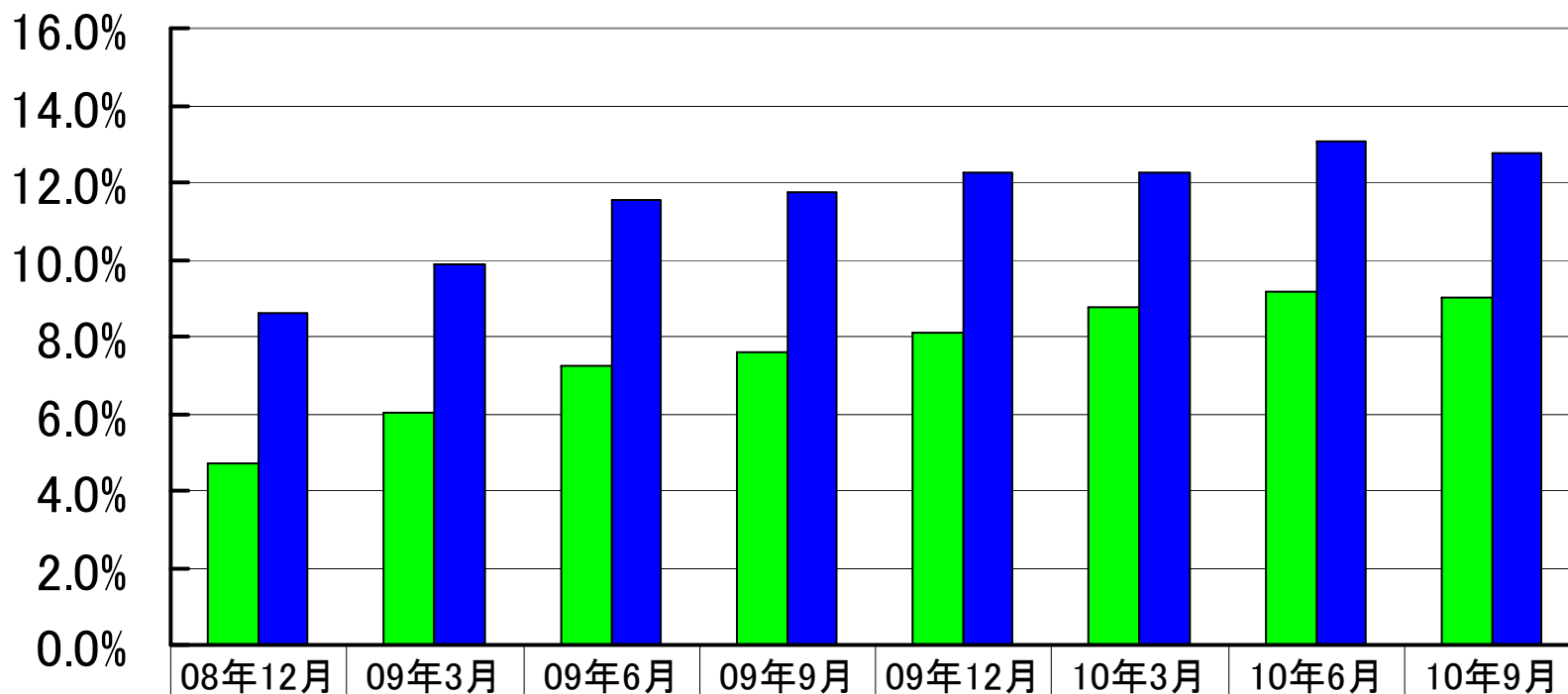
国際航空貨物取扱量 輸出入合計 (JAFA資料より)



空室率・募集賃料水準でみる不動産業界

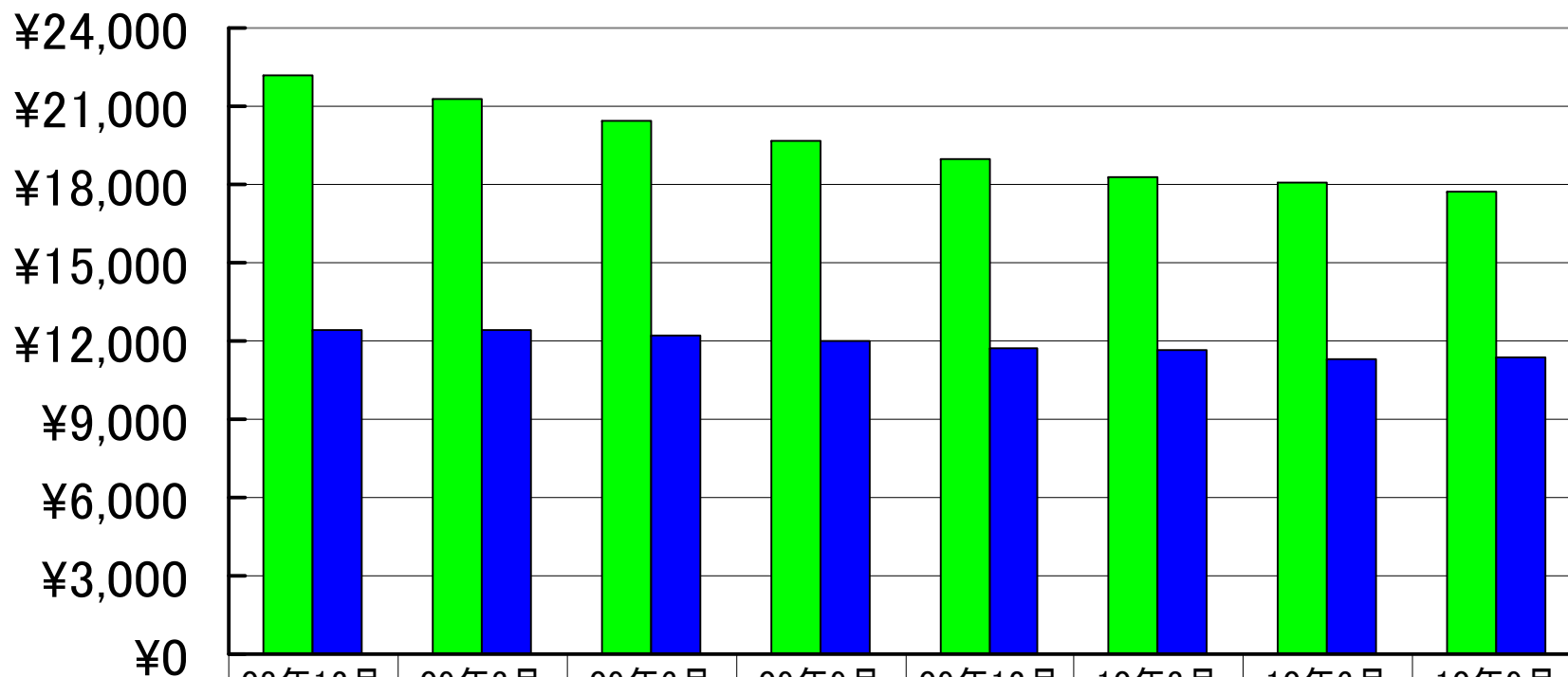


空室率



■ 東京ビジネス地区	4.7%	6.1%	7.3%	7.6%	8.1%	8.8%	9.1%	9.0%
■ 横浜ビジネス地区	8.6%	9.9%	11.5%	11.8%	12.3%	12.3%	13.1%	12.8%

募集賃料相場(円/坪)



■ 東京ビジネス地区

■ 横浜ビジネス地区

2. 2011年3月期 第2四半期(上期)の実績

単位：百万円

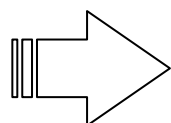
	連 結		増減(額)	増減(率)
	09/4-9	10/4-9		
営 業 収 益	16,105	16,658	553	3.4%
営 業 利 益	1,332	1,195	▲136	▲10.3%
経 常 利 益	1,227	1,119	▲108	▲8.8%
四 半 期 純 利 益	719	279	▲439	▲61.1%

	連 結	
	09/4-9	10/4-9
売上高営業利益率	8.3%	7.2%
四半期純利益/株(円)	23.70	9.22
純資産/株(円)	1,086.57	1,113.14

【主な特別損失】
投資有価証券評価損
▲285
資産除去債務会計基準適用に伴う影響額 (税引後)
▲59
純利益へのインパクト (税引後)
▲344

百万円

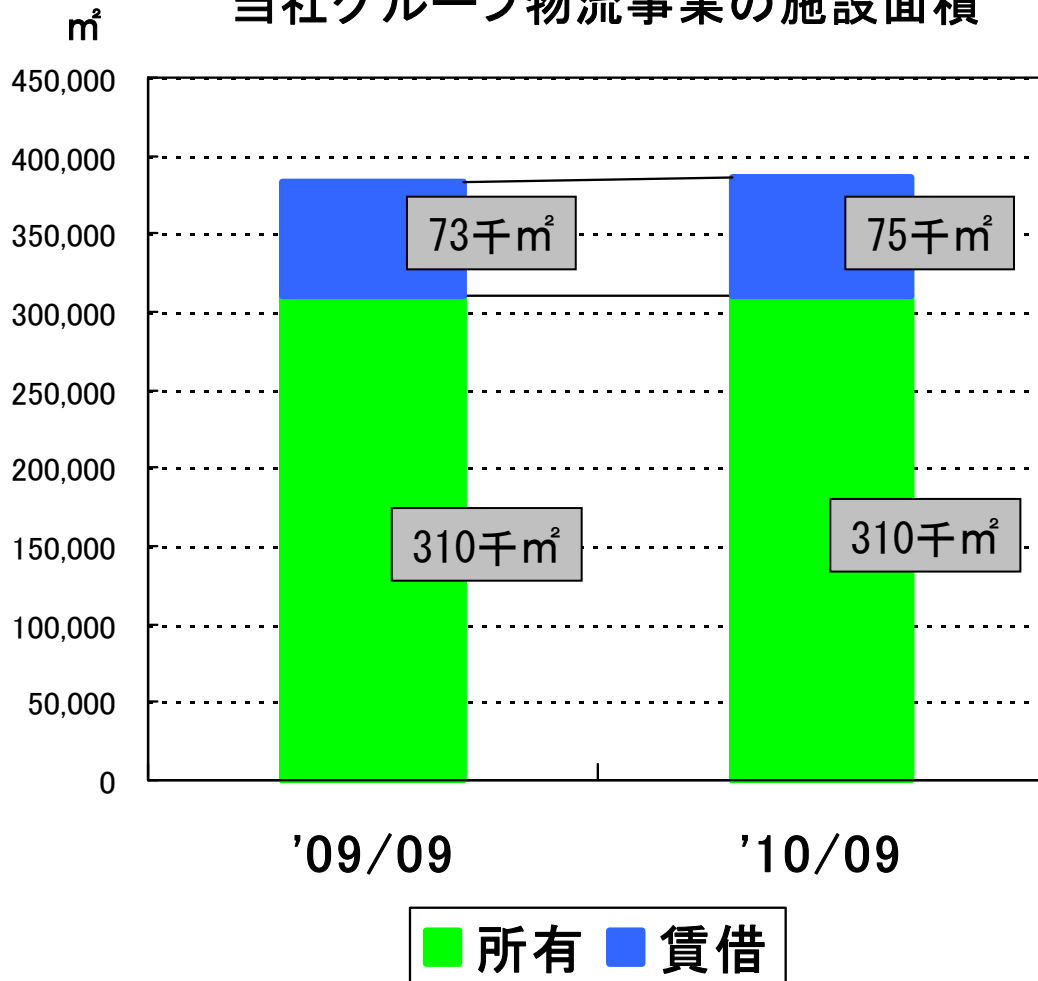
		実績	構成比	前年同期比 額	率
物流事業	営業収益	13,922	82.5%	605	4.5%
	営業利益	1,082	49.2%	▲ 125	▲10.4%
不動産事業	営業収益	2,951	17.5%	▲ 1	▲0.0%
	営業利益	1,116	50.8%	25	2.4%



物流事業は増収減益、不動産事業は増益

- ✓ 物流事業は、輸出入取扱の増加や荷動きの回復により増収となるも、保管残高の伸び悩み等から保管料・物流賃貸料が減少して減益。
- ✓ 不動産事業は、賃料水準の低下により賃貸料収益が減少するも、費用の減少により増益。

当社グループ物流事業の施設面積



【期末面積増減要因 対前期末】

(賃借)

- ・ YCC(大黒流通センター) : + 3千m²
- ・ 北海安田倉庫 : - 1千m²

(所有)

- ・ 大きな変動なし

連結営業収益科目別対比

百万円

	09/4-9	10/4-9	増減(額)	増減(率)
保管料	2,977	2,776	▲ 201	▲ 6.8%
倉庫作業料	2,468	2,602	133	5.4%
陸運料	4,038	4,070	31	0.8%
国際貨物取扱料	2,291	2,792	500	21.9%
物流賃貸料	805	768	▲ 37	▲ 4.6%
その他(物流)	728	905	177	24.4%
不動産賃貸料	2,381	2,322	▲ 58	▲ 2.5%
その他(不動産)	412	420	7	1.9%
合計	16,105	16,658	553	3.4%

物流

不動産

✓ 物流事業では、国際貨物取扱料・その他(物流)・倉庫作業料を中心に増収。保管料は保管残高の伸び悩みにより減収。

- 1 保管・作業 ; 倉庫作業料は荷動きの回復傾向に伴い増収となったものの、主要なお客様の保管残高の伸び悩み・単価減が響き保管料は減収。
- 2 陸運 ; キットイング業務(精密機器の調整・配送・据付)は減少したものの、倉庫配送及び引越の取扱いが増加して増収。
- 3 国際貨物 ; 資材輸送の大型受注もあり、海上・航空ともに増収。
- 4 物流賃貸 ; 一部賃貸物件の空室により減収。
- 5 その他 ; 資材販売の増加及びお客様対応工事により増収。

1 新規取引の開始

- (1) 精密測定機器の
倉庫/配送/輸出業務
(2,600坪相当)
…YCC(大黒流通センター)
- (2) 飲料水(ミネラルウォーター)の
倉庫業務
(600坪相当)
…大阪営業所

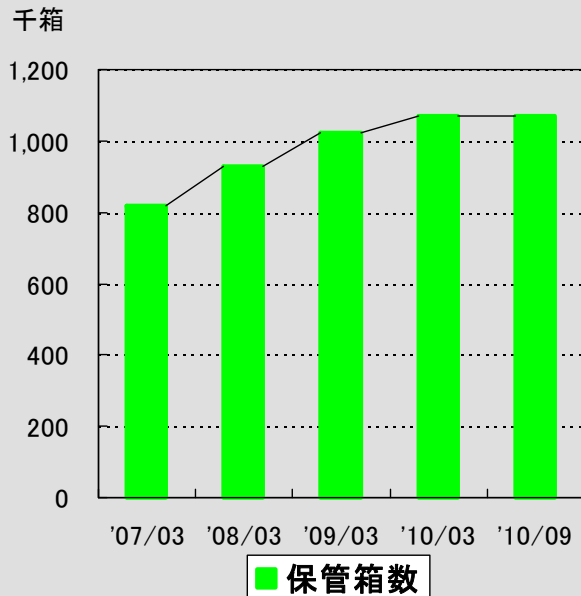
2 既存取引の拡大

- (1) 分析機器の倉庫/配送業務
(700坪相当)
…大井営業所
- (2) 検査機器の倉庫/配送業務
(1,200坪相当)
…YCC(大黒流通センター)
- (3) 建設資材の輸入業務
(250TEU相当)
…IFC(国際輸送センター)

3 文書・情報管理ビジネスの拡大

9月末保管箱数106万箱
 …前年同月末比+1.9%

加須第二営業所の増築を計画中
 (平成24年夏 竣工予定)

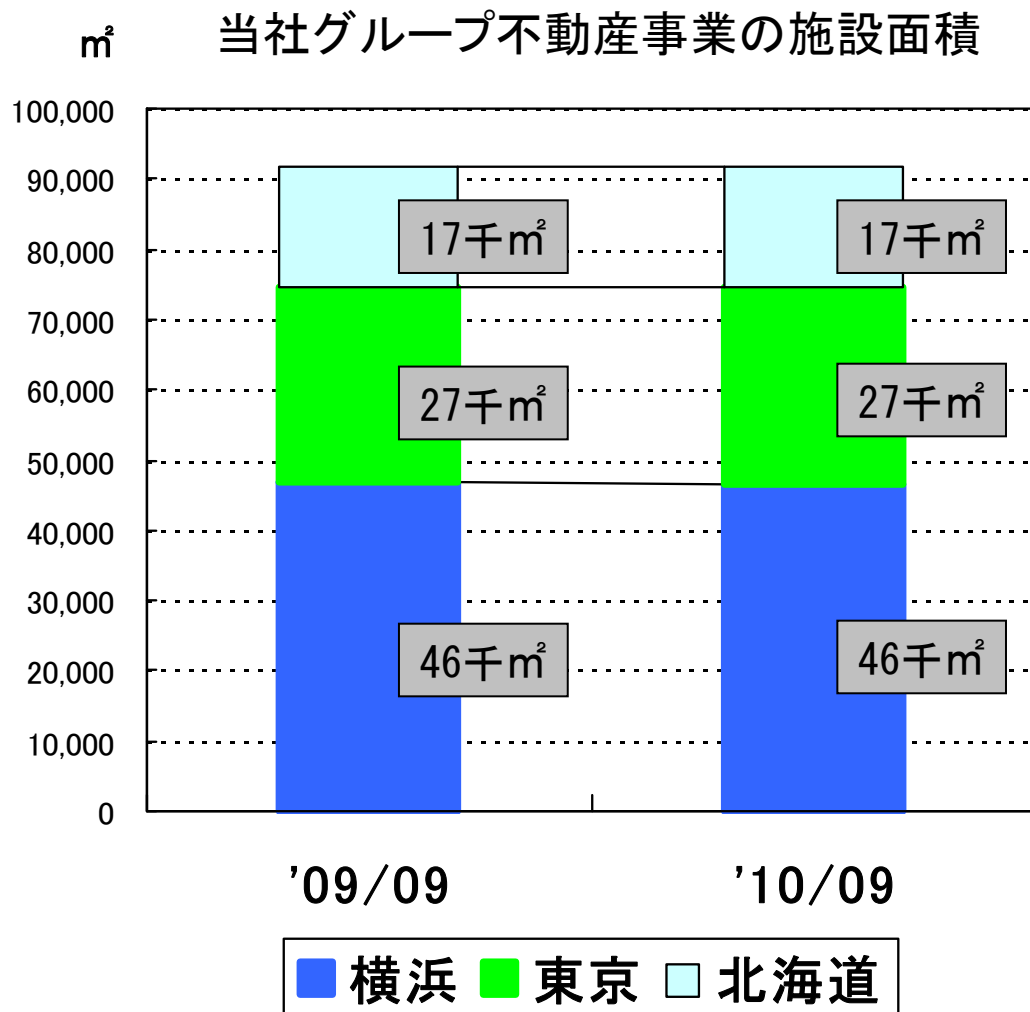


4 中国域内物流への取組み準備

海外事業プロジェクトチーム
 による中国物流調査を実施
 (3月~9月)

来期(2012年3月期)中の
 上海での一般倉庫開設を検討





【期末面積増減要因 対前期末】

- ・ 大きな変動なし

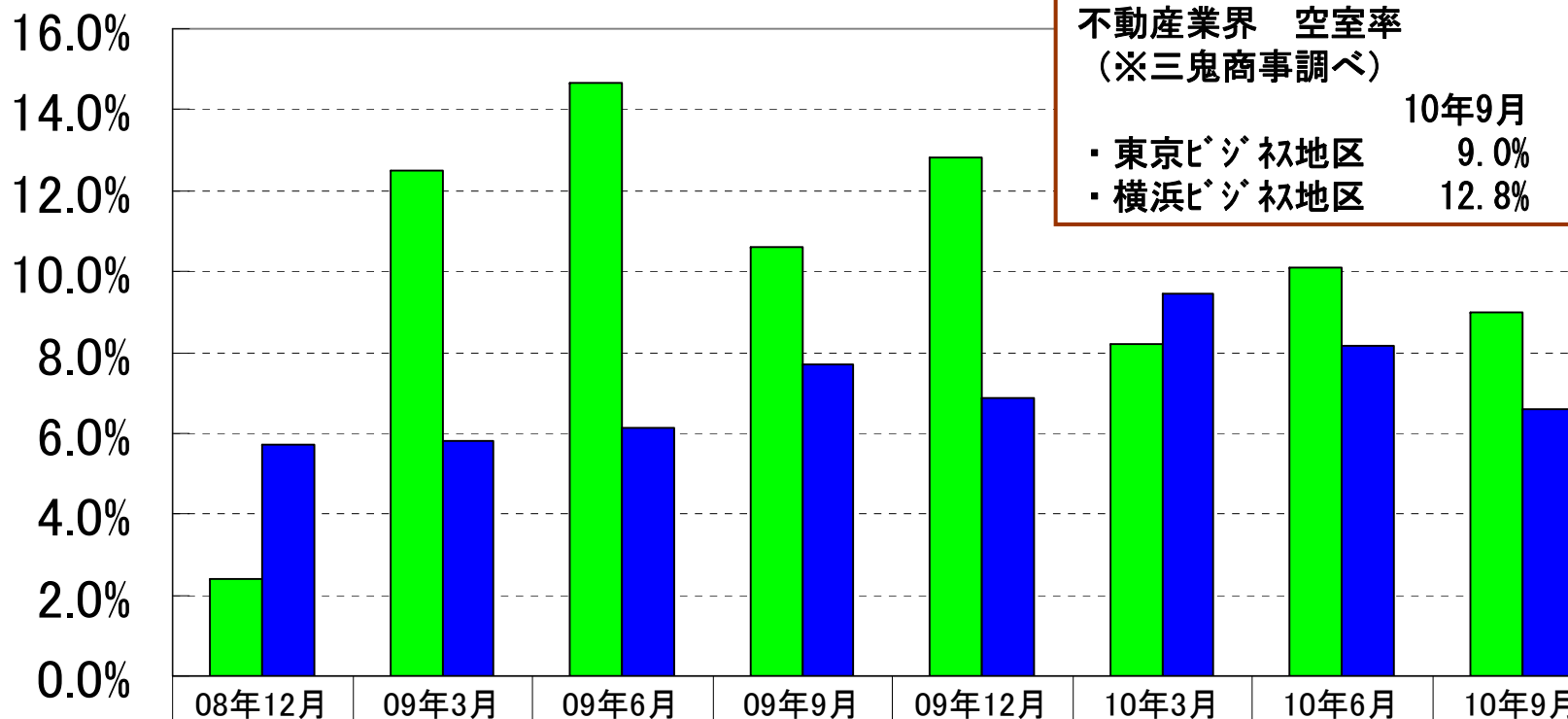
連結営業収益科目別対比

百万円

	09/4-9	10/4-9	増減(額)	増減(率)	
保管料	2,977	2,776	▲ 201	▲ 6.8%	物流
倉庫作業料	2,468	2,602	133	5.4%	
陸運料	4,038	4,070	31	0.8%	
国際貨物取扱料	2,291	2,792	500	21.9%	
物流賃貸料	805	768	▲ 37	▲ 4.6%	
その他(物流)	728	905	177	24.4%	
不動産賃貸料	2,381	2,322	▲ 58	▲ 2.5%	不動産
その他(不動産)	412	420	7	1.9%	
合計	16,105	16,658	553	3.4%	

✓ 不動産事業では、不動産賃貸料が賃料水準の低下により減収。

当社グループ不動産事業のオフィス空室率



不動産業界 空室率
(※三鬼商事調べ)

10年9月

- ・東京ビジネス地区 9.0%
- ・横浜ビジネス地区 12.8%

■ 当社東京地区	2.4%	12.5%	14.7%	10.6%	12.8%	8.2%	10.1%	9.0%
■ 当社横浜地区	5.7%	5.8%	6.1%	7.7%	6.9%	9.5%	8.2%	6.6%

設備投資・借入金



百万円

	09/4-9	10/4-9	増減
設備投資額	1,207	364	▲ 843
主な投資案件		<ul style="list-style-type: none"> ・倉庫内設備 増強工事 ・お客様対応 システム・機器導入 	
減価償却費	1,371	1,301	▲ 70
期末借入金残高	28,053	26,103	▲ 1,950

3. 2011年3月期 通期の見通し

✓ 物流事業

- ・ 営業能力（施設面積）に大きな変動はなし。
- ・ 今後もお客様の在庫圧縮が進み、保管残高が伸び悩むと予想されるため、保管料の拡大は厳しい状態での推移を見込む。

✓ 不動産事業

- ・ 営業能力（施設面積）に大きな変動はなし。
- ・ オフィス需要の冷え込みにより、依然として空室率の高止まりを見込む。

百万円

	10/03期 実績	11/03期 業績予想	10/03期比 額	比率
営業収益	32,432	33,000	567	1.8%
営業利益	2,640	2,300	▲ 340	▲ 12.9%
経常利益	2,459	2,200	▲ 259	▲ 10.6%
当期純利益	1,428	900	▲ 528	▲ 37.0%

- ✓ 国際貨物取扱いが好調を維持すると見込まれることから増収を予想
- ✓ 当初想定した保管料及び不動産賃貸料の拡大が困難なため減益を予想
- ✓ 物流セグメントは増収減益、不動産セグメントは減収減益を予想

業績予想(上期／下期)



百万円

	上期(1Q・2Q)		下期(3Q・4Q)		通期 業績予想
	実績	前年同期比	予想	前年同期比	
営業収益	16,658	553	16,341	14	33,000
営業利益	1,195	▲ 136	1,104	▲ 203	2,300
経常利益	1,119	▲ 108	1,080	▲ 151	2,200
当期純利益	279	▲ 439	620	▲ 88	900

✓ 下期は物流事業・不動産事業ともに厳しい基調で推移するものと見込まれ、保管残高の伸び悩みやオフィス空室率の高止まりにより減益を予想

<配当方針>

安定配当を基本としつつ、利益水準等を勘案して決定

2009年3月期は年間配当14円 (連結配当性向26.7%)

2010年3月期は配当水準維持 (同29.7%)

2011年3月期も配当水準維持予定 (同47.2%)

年間配当14円予定

(中間配当：7円、期末配当：7円)

✓ 連結経営強化によるグループ総合力の向上

- ・ 物流コンサルティングと一体化した営業活動の実施
- ・ お客様のサプライチェーンに資する梱包資材の開発・販売
- ・ お客様発注工事をグループ内で一括して受託

✓ 営業力の強化

- ・ 内外一体となった営業展開の強化
(営業企画部・国際業務室の統合)
- ・ お客様の業種や貨物特性に応じた提案力の強化
セールス面での専門性の強化
(営業各部のグループ再編、お客様の業種別担当営業部体制)
- ・ 当社Webサイト内の「事業案内」リニューアル

✓ブランド別の取組み

【国内物流】

- ・新規のお客様獲得による施設の稼働率向上

【文書・情報管理】

- ・文書電子化・業務プロセス効率化等の周辺業務の取り込み

【SCS】

- ・キitting業務のセールス拡大、専門的ノウハウの構築

【海外・国際物流】

- ・アジア域内物流への参入（中国・上海での営業倉庫開設）推進

【不動産】

- ・賃貸物件への新規テナントの早期誘致

✓サービス品質の向上

- ・お客様のニーズに応える高度なサービス・品質の提供
- ・重点業種のお客様に提供するサービスの深化及びお客様間での横展開

「安田ブランド」の確立、品質強化

ブランド展開

- ✓ 営業力の強化
- ✓ 東アジアでの域内物流開拓
(中国での倉庫事業拡大)

品質強化

- ✓ 「すべてはお客様のために」
- ✓ サービス品質の向上
- ✓ 業務改善の横展開

BIG Cs 2012

「サプライチェーンを
支える優れた物流企業」

YASDA



当資料は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

当資料は、将来の業績に関する記述が含まれております。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであります。将来の業績は、経営環境等の変化に伴い、目標や計画に対し変化し得ることにご留意下さい。

投資を行う際には、必ず弊社が作成する有価証券報告書等をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。